

平成 20 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

平成 21 年 1 月

札幌市市民まちづくり局企画部統計課

1 札幌市の人口動態の概況

平成20年中の人口増加数は3,782人となり
政令指定都市移行後で最小(第1表、第1図)

住民基本台帳による平成20年中の人口増加数は3,782人とどまり、前年(5,153人)を1,371人下回った。ここ数年の推移をみると、14年の13,049人から縮小傾向が続き、20年は政令指定都市となった昭和47年以降で最小となった。

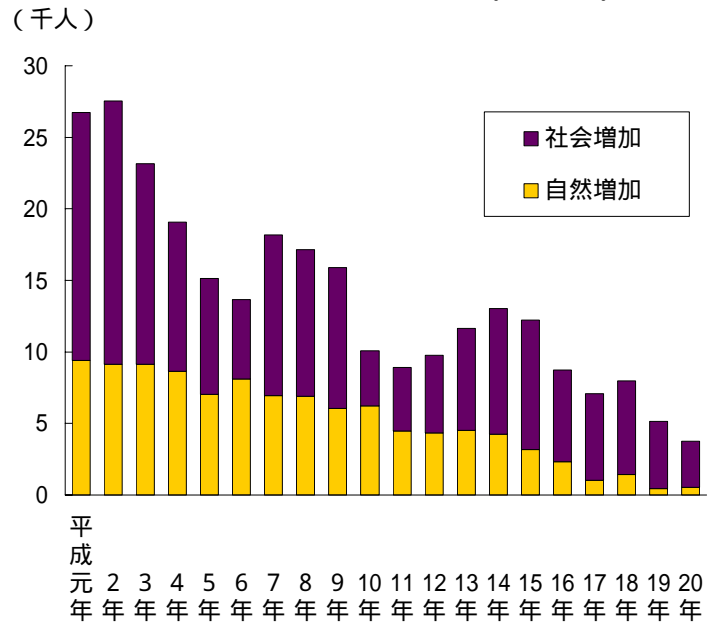
人口増加数を自然増加(出生-死亡)と社会増加(転入-転出)に区分すると、平成20年の自然増加は522人で、前年(462人)を60人上回り、社会増加は3,260人で、前年(4,691人)を1,431人下回った。

推移をみると、自然増加は、6年の8,112人から縮小傾向が続き、20年は19年に引き続き千人を割った。

社会増加は、平成15年の9,062人から縮小傾向が続いており、20年は4千人を割り政令指定都市移行後で最小となった。

人口増加数に占める自然増加と社会増加の割合をみると、平成10年(38.4%)を底に社会増加の割合が上昇し、20年は自然増加が13.8%、社会増加が86.2%と、17年以降は社会増加の割合が8割以上を占めている。

第1図 自然増加及び社会増加の推移
(各年中)



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第1表 人口動態の推移

年次	人口増加数	自然動態			社会動態			割合(%)		
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動	区間移動・その他	人口増加数	自然増加	社会増加
平成元年	26,753	9,419	17,468	8,049	17,334	16,425	909	100.0	35.2	64.8
2年	27,520	9,145	17,459	8,314	18,375	18,335	40	100.0	33.2	66.8
3年	23,146	9,114	17,446	8,332	14,032	14,449	417	100.0	39.4	60.6
4年	19,055	8,634	17,379	8,745	10,421	10,512	91	100.0	45.3	54.7
5年	15,113	7,015	16,483	9,468	8,098	8,130	32	100.0	46.4	53.6
6年	13,666	8,112	17,016	8,904	5,554	5,804	250	100.0	59.4	40.6
7年	18,177	6,921	16,306	9,385	11,256	10,609	647	100.0	38.1	61.9
8年	17,169	6,875	16,367	9,492	10,294	10,002	292	100.0	40.0	60.0
9年	15,909	6,052	15,859	9,807	9,857	9,478	379	100.0	38.0	62.0
10年	10,080	6,207	16,216	10,009	3,873	5,099	1,226	100.0	61.6	38.4
11年	8,900	4,489	15,246	10,757	4,411	4,309	102	100.0	50.4	49.6
12年	9,754	4,361	15,182	10,821	5,393	5,177	216	100.0	44.7	55.3
13年	11,635	4,533	15,277	10,744	7,102	7,186	84	100.0	39.0	61.0
14年	13,049	4,273	15,382	11,109	8,776	8,874	98	100.0	32.7	67.3
15年	12,245	3,183	14,871	11,688	9,062	8,929	133	100.0	26.0	74.0
16年	8,748	2,336	14,750	12,414	6,412	6,506	94	100.0	26.7	73.3
17年	7,076	1,010	14,077	13,067	6,066	5,917	149	100.0	14.3	85.7
18年	7,975	1,434	14,663	13,229	6,541	6,423	118	100.0	18.0	82.0
19年	5,153	462	14,460	13,998	4,691	4,545	146	100.0	9.0	91.0
20年	3,782	522	14,739	14,217	3,260	3,116	144	100.0	13.8	86.2

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

2 自然動態

高齢化の進行にともない死亡率の上昇が続く（第2表、第2図）

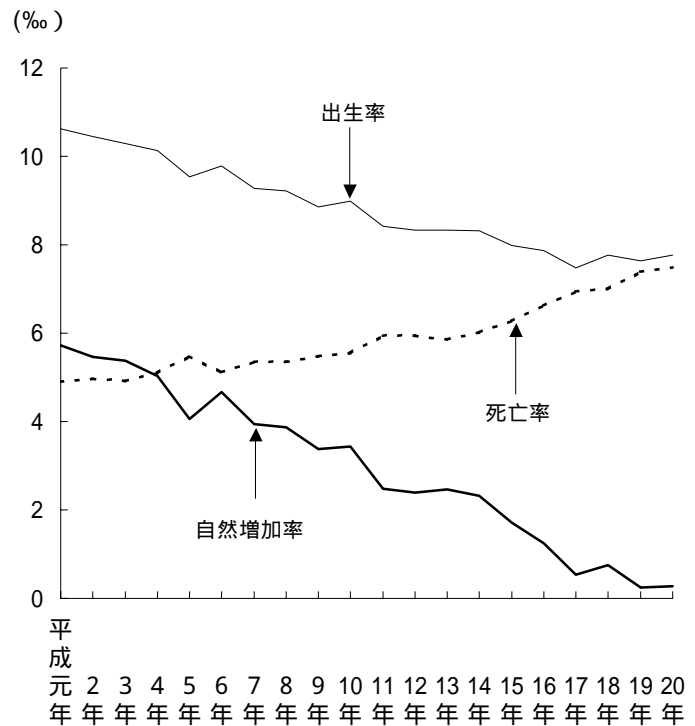
平成20年中の自然動態をみると、出生数は14,739人で、前年（14,460人）から279人増加し、死亡数は14,217人で、前年（13,998人）より219人増加した。

人口千人当たりの比率で推移をみると、20年の出生率（人口千人当たりの出生数）は7.8‰となっており、15年（8.0‰）以降はほぼ一定で推移している。

20年の死亡率（人口千人当たりの死亡数）は7.5‰となっており、6年（5.1‰）から上昇が続いている。この傾向は、高齢化の進行にともない今後も続くものと思われる。

自然増加率（人口千人当たりの自然増加数）は、0.3‰となっており、17年以降1.0‰以下で推移している。

第2図 出生率、死亡率及び自然増加率の推移（各年中）



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第2表 自然動態の推移

年次	自然動態			比率 (‰) 1)		
	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡
平成元年	9,419	17,468	8,049	5.7	10.6	4.9
2年	9,145	17,459	8,314	5.5	10.4	5.0
3年	9,114	17,446	8,332	5.4	10.3	4.9
4年	8,634	17,379	8,745	5.0	10.1	5.1
5年	7,015	16,483	9,468	4.1	9.5	5.5
6年	8,112	17,016	8,904	4.7	9.8	5.1
7年	6,921	16,306	9,385	3.9	9.3	5.3
8年	6,875	16,367	9,492	3.9	9.2	5.3
9年	6,052	15,859	9,807	3.4	8.9	5.5
10年	6,207	16,216	10,009	3.4	9.0	5.5
11年	4,489	15,246	10,757	2.5	8.4	5.9
12年	4,361	15,182	10,821	2.4	8.3	5.9
13年	4,533	15,277	10,744	2.5	8.3	5.9
14年	4,273	15,382	11,109	2.3	8.3	6.0
15年	3,183	14,871	11,688	1.7	8.0	6.3
16年	2,336	14,750	12,414	1.2	7.9	6.6
17年	1,010	14,077	13,067	0.5	7.5	6.9
18年	1,434	14,663	13,229	0.8	7.8	7.0
19年	462	14,460	13,998	0.2	7.6	7.4
20年	522	14,739	14,217	0.3	7.8	7.5

注：1) 比率算出に用いた人口は、国勢調査人口及び推計人口（各年10月1日現在）である。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

3 社会動態

(1) 概況

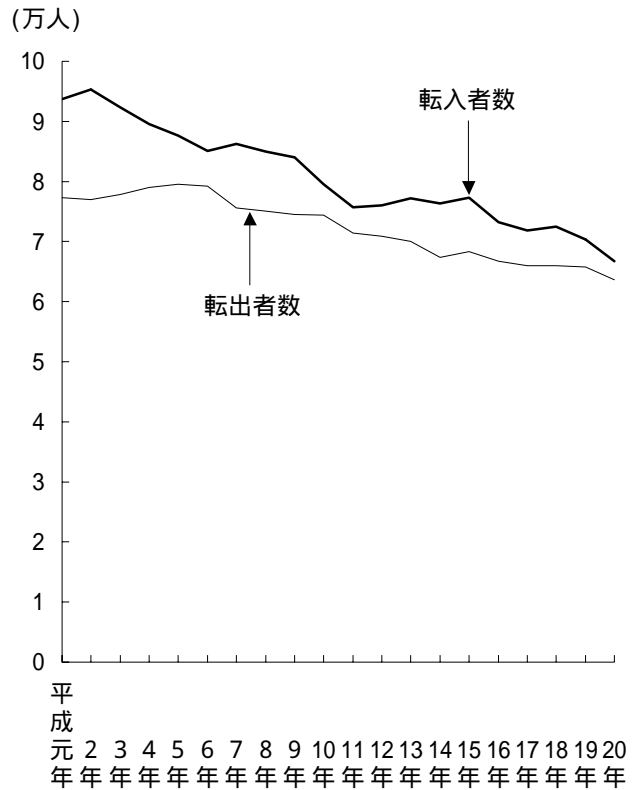
政令指定都市移行後で道外への転出超過規模は最大(第3表、第3、4図)

平成20年中の社会動態をみると、市外から札幌市への転入者数は66,745人で、前年(70,314人)より3,569人減少した。推移をみると、16年以降は減少傾向が続き、20年は政令指定都市移行後で初めて7万人を割った。

市外への転出者数は63,629人で、前年(65,769人)より2,140人減少した。推移をみると、平成12年までは7万人を超えていたが、13年以降減少傾向が続いている。

市外との転入超過数(転入者数 - 転出者数)は3,116人の転入超過で、前年(4,545人)を1,429人下回った。推移をみると、平成11年の4,309人を底として12年以降は拡大が続き、15年は8,929人と9千人近くとなったが、16年以降は再び縮小傾向に転じ、20年は4千人を大きく下回った。

第3図 転入・転出者数の推移
(各年中)



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第3表 道内・道外別転入・転出者数の推移

年次	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
平成元年	93,726	64,873	28,853	77,301	43,655	33,646	16,425	21,218	4,793
2年	95,301	64,397	30,904	76,966	43,253	33,713	18,335	21,144	2,809
3年	92,320	61,057	31,263	77,871	45,321	32,550	14,449	15,736	1,287
4年	89,557	57,985	31,572	79,045	46,722	32,323	10,512	11,263	751
5年	87,659	56,532	31,127	79,529	47,882	31,647	8,130	8,650	520
6年	85,052	54,440	30,612	79,248	49,008	30,240	5,804	5,432	372
7年	86,238	54,691	31,547	75,629	45,480	30,149	10,609	9,211	1,398
8年	85,017	54,143	30,874	75,015	44,146	30,869	10,002	9,997	5
9年	84,038	53,625	30,413	74,560	42,949	31,611	9,478	10,676	1,198
10年	79,563	49,700	29,863	74,464	40,503	33,961	5,099	9,197	4,098
11年	75,735	47,380	28,355	71,426	39,422	32,004	4,309	7,958	3,649
12年	76,059	48,348	27,711	70,882	38,804	32,078	5,177	9,544	4,367
13年	77,180	48,789	28,391	69,994	36,952	33,042	7,186	11,837	4,651
14年	76,296	48,189	28,107	67,422	36,347	31,075	8,874	11,842	2,968
15年	77,258	49,237	28,021	68,329	36,447	31,882	8,929	12,790	3,861
16年	73,219	46,116	27,103	66,713	35,280	31,433	6,506	10,836	4,330
17年	71,862	45,445	26,417	65,945	33,653	32,292	5,917	11,792	5,875
18年	72,464	46,459	26,005	66,041	32,754	33,287	6,423	13,705	7,282
19年	70,314	45,048	25,266	65,769	31,754	34,015	4,545	13,294	8,749
20年	66,745	42,535	24,210	63,629	30,123	33,506	3,116	12,412	9,296

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

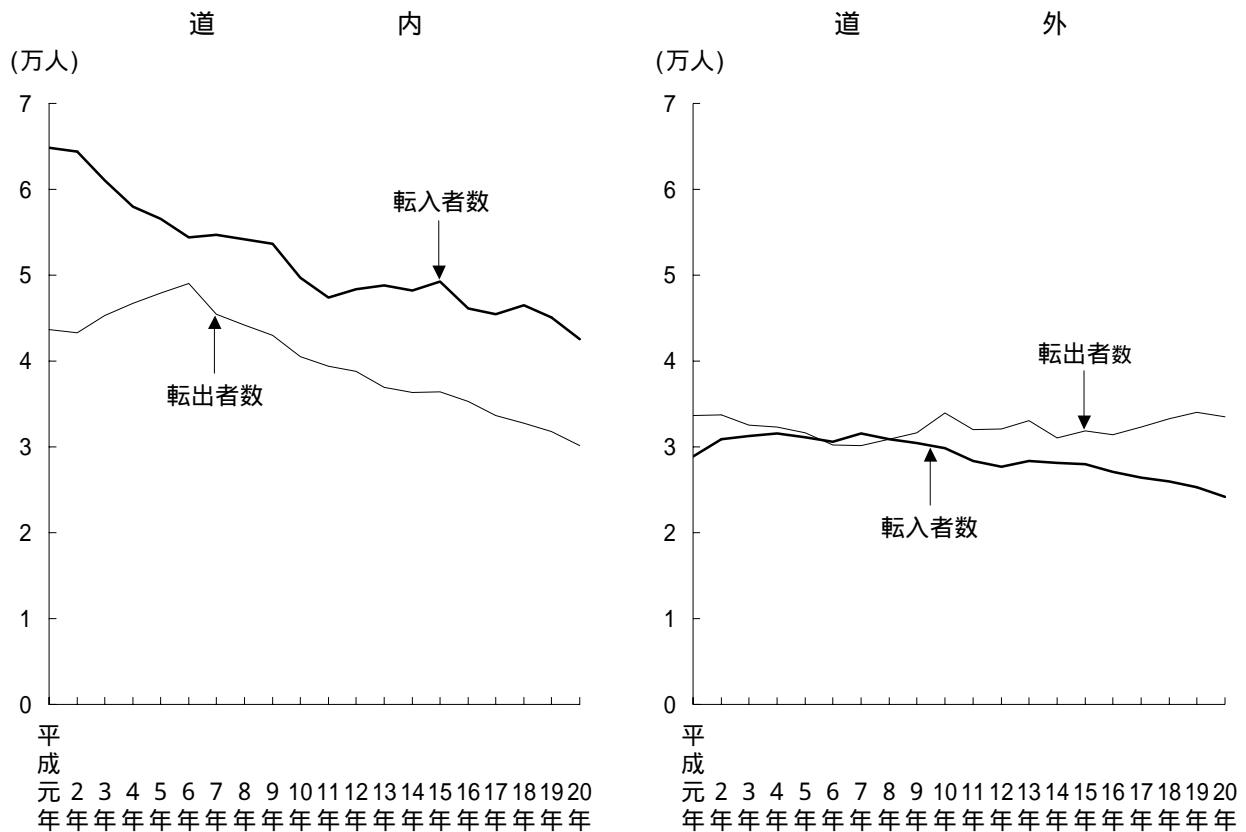
平成20年中の社会動態を道内・道外別にみると、道内からの転入者数は42,535人で、前年(45,048人)より2,513人減少した。推移をみると、16~19年は4万5千人~4万6千人台前半で推移していたが、20年は、42,535人に減少した。道内への転出者数は30,123人で、前年(31,754人)より1,631人減少した。推移をみると、13~15年は3万6千人前後で推移していたが、16年以降減少が続いている。

道内との関係は、常に転入超過の状態が続いており、20年は12,412人の転入超過で、前年(13,294人)を882人下回った。推移をみると、18、19年は1万3千人台で推移していたが、20年は12,412人に縮小した。

道外からの転入者数は24,210人で、前年(25,266人)より1,056人減少した。推移をみると、13年の28,391人から減少が続いている。道外への転出者数は33,506人で、前年(34,015人)より509人減少した。推移をみると、11~17年は、13年(33,042人)を除き、3万2千人前後で推移していたが、18年以降は3万3千人を超える規模で推移している。

道外との関係は、20年は9,296人の転出超過で、前年(8,749人)よりも547人規模が拡大した。推移をみると、6~8年を除き転出超過となっており、14年以降は拡大が続き、20年は政令指定都市移行後で最大規模となった。

第4図 道内・道外別転入・転出者数の推移
(各年中)



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

(2) 道内地域別転入・転出者数

「主要8市」に対する転入超過規模は縮小(第4表)

道内を「主要8市」(函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市)、「石狩支庁管内」(江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市及び石狩郡部)、「その他の市部」及び「その他の郡部」の4地域に分けて、平成20年中の転入者数、転出者数、転入超過数をみている。

転入者数をみると、「主要8市」からの転入が17,516人で最も多く、以下、「その他の郡部」が9,695人、「石狩支庁管内」が7,727人、「その他の市部」が7,597人となった。前年と比べると、すべての地域において減少した。

転出者数をみると、「主要8市」への転出が12,611人で最も多く、以下、「石狩支庁管内」が6,903人、「その他の郡部」が5,862人、「その他の市部」が4,747人となった。前年と比べると、すべての地域において減少した。

転入超過数をみると、すべての地域で転入超過となっており、「主要8市」が4,905人で最も大きく、以下、「その他の郡部」が3,833人、「その他の市部」が2,850人、「石狩支庁管内」が824人となっている。前年と比べると「石狩支庁管内」は329人上回ったが、「主要8市」は702人、「その他の市部」は365人、「その他の郡部」は144人それぞれ下回った。

「石狩支庁管内」の内訳をみると、石狩市のみが118人の転出超過となっているが、その他は転入超過となっており、江別市が473人、石狩郡部が222人、千歳市が153人、恵庭市が79人、北広島市が15人となっている。

道内の転入超過規模の縮小は、「主要8市」に対する規模の縮小の影響が大きいと考えられる。

第4表 道内地域別転入・転出者数の推移

集計時点の市町村区分による。

年次	総数	主要8市 1)	石狩支庁管内							各年中	
			総数	江別市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	石狩郡部	その他の市部	その他の郡部
平成15年	49,237	20,901	8,171	2,481	1,289	922	1,362	1,474	643	8,460	11,705
16年	46,116	19,003	8,181	2,512	1,341	927	1,255	1,473	673	7,870	11,062
17年	45,445	19,284	7,650	2,286	1,296	894	1,220	1,416	538	7,678	10,833
18年	46,459	19,657	8,081	2,383	1,253	921	1,365	1,600	559	8,147	10,574
19年	45,048	19,073	7,743	2,250	1,359	878	1,292	1,511	453	8,103	10,129
20年	42,535	17,516	7,727	2,251	1,305	926	1,180	1,537	528	7,597	9,695
			転出者数								
平成15年	36,447	14,670	8,365	2,294	1,226	1,002	1,709	1,682	452	5,481	7,931
16年	35,280	14,190	8,170	2,210	1,333	798	1,675	1,739	415	5,192	7,728
17年	33,653	13,990	7,592	2,000	1,189	870	1,547	1,593	393	5,081	6,990
18年	32,754	13,402	7,645	1,902	1,261	888	1,510	1,727	357	5,109	6,598
19年	31,754	13,466	7,248	1,942	1,211	872	1,238	1,694	291	4,888	6,152
20年	30,123	12,611	6,903	1,778	1,152	847	1,165	1,655	306	4,747	5,862
			転入超過数								
平成15年	12,790	6,231	194	187	63	80	347	208	191	2,979	3,774
16年	10,836	4,813	11	302	8	129	420	266	258	2,678	3,334
17年	11,792	5,294	58	286	107	24	327	177	145	2,597	3,843
18年	13,705	6,255	436	481	8	33	145	127	202	3,038	3,976
19年	13,294	5,607	495	308	148	6	54	183	162	3,215	3,977
20年	12,412	4,905	824	473	153	79	15	118	222	2,850	3,833

注：1) 函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

(3) 道外地域別転入・転出者数

「関東圏」、「中部圏」及び「近畿圏」に対する転出超過規模は拡大（第5表）

道外を「東北圏」、「関東圏」、「中部圏」、「近畿圏」及び「その他」の5圏域に分け、平成20年中の転入者数、転出者数、転入超過数をみている。なお、各圏域に該当する都府県については、第5表の注を参照のこと。

転入者数をみると、「関東圏」からの転入者数が12,742人で最も多く、全体の52.6%と半数以上を占めている。以下、「東北圏」が3,275人(13.5%)、「その他」が3,082人(12.7%)、「中部圏」が2,916人(12.0%)、「近畿圏」が2,195人(9.1%)となった。前年と比べると、「その他」からの転入者は増加したが、それ以外の圏域では減少した。

転出者数をみると、「関東圏」への転出者数が20,045人で最も多く、全体の59.8%とほぼ6割を占めている。以下、「中部圏」が4,371人(13.0%)、「その他」が3,372人(10.1%)、「東北圏」が3,067人(9.2%)、「近畿圏」が2,651人(7.9%)となった。前年と比べると、「中部圏」及び「近畿圏」への転出者数は増加したが、それ以外の圏域では減少した。

転入超過数をみると、「東北圏」が208人の転入超過となったが、その他の圏域では転出超過となっており、特に「関東圏」が7,303人と大半を占めている。前年と比べると、「中部圏」は381人、「関東圏」は227人、「近畿圏」は193人それぞれ転出超過規模が拡大した。

道外の転出超過規模の拡大は、「関東圏」、「中部圏」及び「近畿圏」に対する規模の拡大によるものと考えられる。

第5表 道外地域別転入・転出者数の推移

年次	各年中											
	実数						割合 (%)					
	総数	東北圏 1)	関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)	その他	総数	東北圏 1)	関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)	その他
転入者数												
平成15年	28,021	3,927	14,926	3,374	2,694	3,100	100.0	14.0	53.3	12.0	9.6	11.1
16年	27,103	3,635	14,226	3,287	2,718	3,237	100.0	13.4	52.5	12.1	10.0	11.9
17年	26,417	3,529	13,982	3,227	2,525	3,154	100.0	13.4	52.9	12.2	9.6	11.9
18年	26,005	3,651	13,774	3,132	2,389	3,059	100.0	14.0	53.0	12.0	9.2	11.8
19年	25,266	3,476	13,199	3,278	2,296	3,017	100.0	13.8	52.2	13.0	9.1	11.9
20年	24,210	3,275	12,742	2,916	2,195	3,082	100.0	13.5	52.6	12.0	9.1	12.7
転出者数												
平成15年	31,882	3,602	18,236	3,878	2,716	3,450	100.0	11.3	57.2	12.2	8.5	10.8
16年	31,433	3,434	17,894	3,885	2,775	3,445	100.0	10.9	56.9	12.4	8.8	11.0
17年	32,292	3,346	18,571	4,142	2,688	3,545	100.0	10.4	57.5	12.8	8.3	11.0
18年	33,287	3,217	19,314	4,352	2,937	3,467	100.0	9.7	58.0	13.1	8.8	10.4
19年	34,015	3,325	20,275	4,352	2,559	3,504	100.0	9.8	59.6	12.8	7.5	10.3
20年	33,506	3,067	20,045	4,371	2,651	3,372	100.0	9.2	59.8	13.0	7.9	10.1
転入超過数												
平成15年	3,861	325	3,310	504	22	350	-	-	-	-	-	-
16年	4,330	201	3,668	598	57	208	-	-	-	-	-	-
17年	5,875	183	4,589	915	163	391	-	-	-	-	-	-
18年	7,282	434	5,540	1,220	548	408	-	-	-	-	-	-
19年	8,749	151	7,076	1,074	263	487	-	-	-	-	-	-
20年	9,296	208	7,303	1,455	456	290	-	-	-	-	-	-

注：1) 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県。 2) 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。
3) 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県。 4) 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県。

4 男女別人口動態

男性は304人の減少に転じる（第6表、第5図）

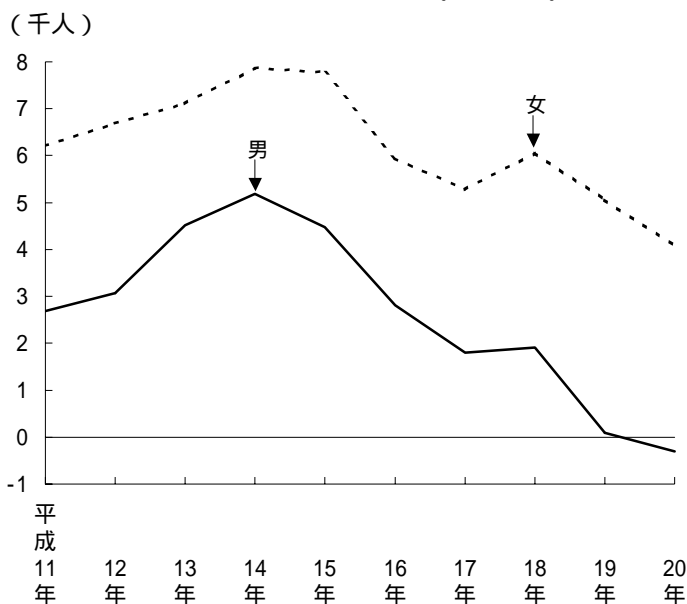
平成20年中の人口増加数を男女別にみると、男性は304人の減少で前年（96人）を400人下回り、女性は4,086人の増加で前年（5,057人）を971人下回った。

男性の人口増加数の内訳をみると、自然増加は206人、社会増加は98人とそれぞれ減少した。推移をみると、自然増加は17年に減少に転じ、18年は増加となったが、19年以降は再び減少となった。また、社会増加も縮小を続け、20年は減少に転じた。

女性の人口増加数の内訳をみると、自然増加は728人、社会増加は3,358人とそれぞれ増加した。推移をみると、自然増加は縮小を続けており、社会増加は、15年の5,749人から16年の4,246人まで大幅に縮小した後、4千人台で推移していたが、20年は4千人を割った。

人口増加数を男女で比べると、男性が女性を4,390人下回った。内訳をみると、自然増加では女性を934人下回り、社会増加でも3,456人下回っている。男性が女性を下回る理由としては、平均寿命の違いから男性の死亡者数が多いこと、女性に比べて仕事等の影響から道外への転出が多いことなどが考えられる。

第5図 男女別人口増加数の推移（各年中）



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第6表 男女別人口動態の推移

年次	人口増加数	各年中						
		自然動態			社会動態			
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動		区間移動・その他
総数			数					
道内	道外							
平成15年	12,245	3,183	14,871	11,688	9,062	12,790	3,861	133
平成16年	8,748	2,336	14,750	12,414	6,412	10,836	4,330	94
平成17年	7,076	1,010	14,077	13,067	6,066	11,792	5,875	149
平成18年	7,975	1,434	14,663	13,229	6,541	13,705	7,282	118
平成19年	5,153	462	14,460	13,998	4,691	13,294	8,749	146
平成20年	3,782	522	14,739	14,217	3,260	12,412	9,296	144
男								
平成15年	4,481	1,168	7,597	6,429	3,313	5,232	1,970	51
平成16年	2,807	641	7,534	6,893	2,166	4,513	2,170	177
平成17年	1,795	141	7,146	7,287	1,936	5,144	3,272	64
平成18年	1,914	365	7,558	7,193	1,549	5,809	4,292	32
平成19年	96	317	7,336	7,653	413	5,488	5,137	62
平成20年	304	206	7,496	7,702	98	5,116	5,298	84
女								
平成15年	7,764	2,015	7,274	5,259	5,749	7,558	1,891	82
平成16年	5,941	1,695	7,216	5,521	4,246	6,323	2,160	83
平成17年	5,281	1,151	6,931	5,780	4,130	6,648	2,603	85
平成18年	6,061	1,069	7,105	6,036	4,992	7,896	2,990	86
平成19年	5,057	779	7,124	6,345	4,278	7,806	3,612	84
平成20年	4,086	728	7,243	6,515	3,358	7,296	3,998	60

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

5 年齢別人口動態

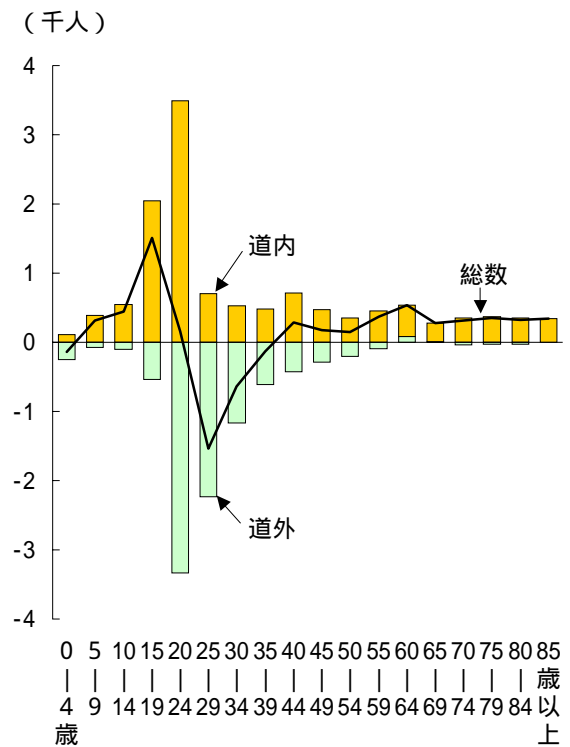
平成20年中の転入超過規模は、「15～19歳」が最大（第7表、第6図）

平成20年中の市外との転入・転出者数を年齢（5歳階級）別にみると、転入者では「20～24歳」が12,621人で最も多く、以下、「25～29歳」が9,880人、「30～34歳」が8,188人などと続き、20～34歳で全体の半数近くを占めている。また、転出者でも「20～24歳」が12,464人で最も多く、以下、「25～29歳」が11,415人、「30～34歳」が8,829人などと続き、20～34歳で全体の半数以上を占めている。

転入超過数を見ると、「0～4歳」、「25～29歳」、「30～34歳」、「35～39歳」の4つの年齢階級を除き転入超過となっており、「15～19歳」が1,507人で最大で、次いで「60～64歳」が539人の転入超過となっている。

転入超過数を道内・道外別にみると、道内ではすべての年齢階級で転入超過となっており、特に「20～24歳」では3,491人、「15～19歳」では2,042人の転入超過となっている。一方、道外ではほとんどの年齢階級で転出超過となっており、特に「20～24歳」では3,334人、「25～29歳」では2,236人、「30～34歳」では1,167人の転出超過となっている。

第6図 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（平成20年中）



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第7表 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入・転出者数

年齢 (5歳階級)	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
総数	66,745	42,535	24,210	63,629	30,123	33,506	3,116	12,412	9,296
0～4歳	3,885	2,260	1,625	4,021	2,147	1,874	136	113	249
5～9	2,733	1,509	1,224	2,414	1,120	1,294	319	389	70
10～14	1,671	1,035	636	1,228	488	740	443	547	104
15～19	4,511	3,531	980	3,004	1,489	1,515	1,507	2,042	535
20～24	12,621	8,922	3,699	12,464	5,431	7,033	157	3,491	3,334
25～29	9,880	5,968	3,912	11,415	5,267	6,148	1,535	701	2,236
30～34	8,188	4,762	3,426	8,829	4,236	4,593	641	526	1,167
35～39	6,257	3,416	2,841	6,384	2,936	3,448	127	480	607
40～44	4,164	2,350	1,814	3,877	1,641	2,236	287	709	422
45～49	3,002	1,855	1,147	2,823	1,385	1,438	179	470	291
50～54	2,464	1,620	844	2,318	1,269	1,049	146	351	205
55～59	2,417	1,597	820	2,047	1,139	908	370	458	88
60～64	1,555	1,012	543	1,016	558	458	539	454	85
65～69	775	530	245	497	263	234	278	267	11
70～74	692	547	145	375	197	178	317	350	33
75～79	684	562	122	336	190	146	348	372	24
80～84	623	529	94	303	181	122	320	348	28
85歳以上	623	530	93	278	186	92	345	344	1
(再掲)									
年少人口	8,289	4,804	3,485	7,663	3,755	3,908	626	1,049	423
生産年齢人口	55,059	35,033	20,026	54,177	25,351	28,826	882	9,682	8,800
老年人口	3,397	2,698	699	1,789	1,017	772	1,608	1,681	73

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

「20～24歳」の転入超過数規模は大幅に縮小（第8表、第7図）

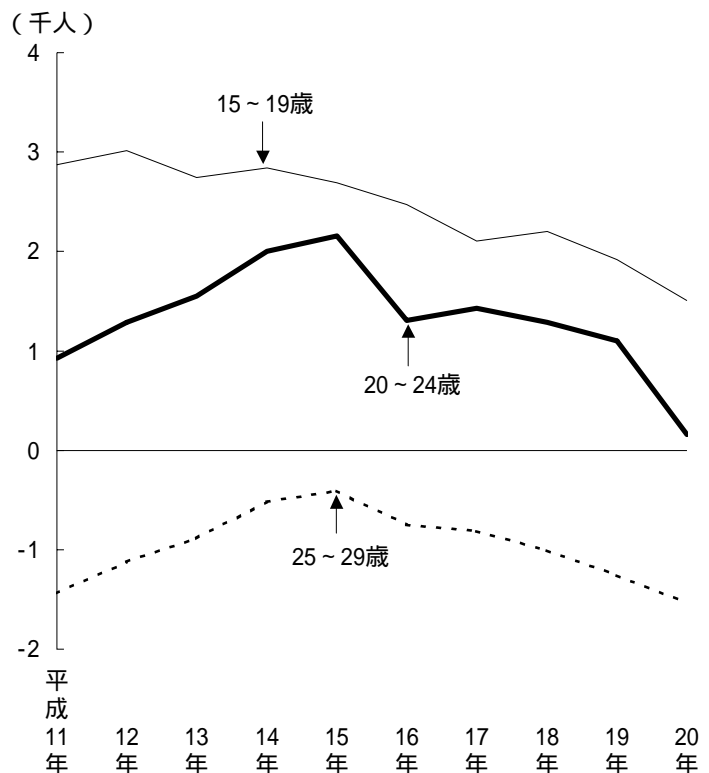
年齢（3区分）別に転入超過数について推移をみると、すべての区分で転入超過となっているものの、生産年齢人口においては、平成16年以降、その規模は縮小傾向で推移しており、20年は前年（2,484人）から大幅に縮小し、千人を割って882人となった。

生産年齢人口のうち主な年齢をみると、「15～19歳」は転入超過が続いているが、その規模は縮小傾向で推移しており、19年には2千人を割り、20年は1,507人とさらに縮小した。「20～24歳」も転入超過が続いているが、その規模は縮小傾向で推移し、20年はわずか157人とどまり、前年（1,102人）よりも千人近く規模が縮小した。

一方、「25～29歳」は転出超過が続いており、15年の409人を底にその規模は拡大傾向で推移している。また、「30～34歳」も転出超過が続いている。

生産年齢人口の大幅な転入超過規模の縮小は、15～24歳の転入超過規模の縮小、「25～29歳」の転出超過規模の拡大の影響が大きい。

第7図 主な年齢別転入超過数の推移



<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第8表 年齢（3区分）別市外転入超過数の推移

年次	年少人口	生産年齢人口	各年中					老年人口
			15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	
平成11年	77	2,910	2,873	928	1,438	754	194	1,322
12年	63	3,946	3,013	1,290	1,123	483	74	1,168
13年	876	4,984	2,743	1,553	884	432	135	1,326
14年	1,055	6,456	2,843	2,002	520	116	190	1,363
15年	752	6,618	2,690	2,158	409	21	285	1,559
16年	554	4,597	2,471	1,309	752	342	122	1,355
17年	471	3,906	2,108	1,431	815	620	55	1,540
18年	859	3,883	2,201	1,285	1,010	259	16	1,681
19年	434	2,484	1,920	1,102	1,259	536	129	1,627
20年	626	882	1,507	157	1,535	641	127	1,608

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

6 各区の人口動態

人口増加数は全市と中央区がほぼ同数（第9、10表）

平成20年中の人口増加数を区別にみると、中央区が3,778人増と全市の増加数とはほぼ同数となり、以下、清田区が572人、豊平区が500人、北区が322人、白石区が118人、手稲区が95人、西区が92人、厚別区が26人とそれぞれ増加となった。一方、南区は、367人減と11年連続で減少し、東区が354人減となった。

人口増加数の内訳をみると、自然動態は、厚別区、南区及び手稲区を除いた7区で増加となっている。また、社会動態は、東区、白石区、南区及び西区の4区で減少となっているものの、他の6区では増加となっている。特に、中央区は3,690人増と3千人以上増加しており、全市（3,260人）を上回っている。

市外との移動による増加をみると、北区及び南区以外で転入超過となっており、特に、中央区は2,168人と全市の7割を占めている。

区間移動による増加をみると、中央区、北区、清田区及び手稲区の4区では転入超過となっている。特に、中央区は1,472人と最も多く、すべての区に対して転入超過となっている。

一方、他の6区では転出超過となっており、特に、東区は1,025人の転出超過となっており、白石区及び南区を除く7区に対して転出超過となっている。

第9表 各区の人口動態

区		人口増加数	自然動態			社会動態				
			自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動による増加	区間移動による増加	職権等増減	
全	市	3,782	522	14,739	14,217	3,260	3,116	—	144	
中	央	区	3,778	88	1,620	1,532	3,690	2,168	1,472	50
北	区	322	81	2,073	1,992	241	△ 40	320	△ 39	
東	区	△ 354	424	2,295	1,871	△ 778	223	△ 1,025	24	
白	石	区	118	368	1,915	1,547	△ 250	159	△ 451	42
厚	別	区	26	△ 117	839	956	143	246	△ 127	24
豊	平	区	500	143	1,746	1,603	357	553	△ 237	41
清	田	区	572	20	801	781	552	23	547	△ 18
南	区	△ 1,367	△ 417	868	1,285	△ 950	△ 408	△ 556	14	
西	区	92	104	1,693	1,589	△ 12	190	△ 195	△ 7	
手	稲	区	95	△ 172	889	1,061	267	2	252	13

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第10表 前住地別区間転入超過状況

転入地		平成20年中											
		全市	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区	
全	市	—	△1,472	△ 320	1,025	451	127	237	△ 547	556	195	△ 252	
中	央	区	1,472	—	232	340	172	34	305	63	223	7	96
北	区	320	△ 232	—	551	70	△ 30	△ 21	—	△ 11	9	△ 16	
東	区	△1,025	△ 340	△ 551	—	85	△ 16	△ 102	△ 4	58	△ 92	△ 63	
白	石	区	△ 451	△ 172	△ 70	△ 85	—	△ 90	44	△ 185	87	42	△ 22
厚	別	区	△ 127	△ 34	30	16	90	—	6	△ 253	7	△ 8	19
豊	平	区	△ 237	△ 305	21	102	△ 44	△ 6	—	△ 145	145	△ 29	24
清	田	区	547	△ 63	—	4	185	253	145	—	26	△ 18	15
南	区	△ 556	△ 223	11	△ 58	△ 87	△ 7	△ 145	△ 26	—	△ 49	28	
西	区	△ 195	△ 7	△ 9	92	△ 42	8	29	18	49	—	△ 333	
手	稲	区	252	△ 96	16	63	22	△ 19	△ 15	△ 28	333	—	

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

7 まちづくりセンター別人口動態

平成20年中、人口増加数の最も多いまちづくりセンターは中央区の「桑園」(第11表、第8図)

平成20年中のまちづくりセンター(全87か所)別の人口増加状況をみると、増加が47か所、減少が40か所となっている。

人口増加数の多いまちづくりセンターをみると、中央区の「桑園」が668人で最も多く、以下、中央区の「円山」が588人、中央区の「東北」が524人、白石区の「菊水」が486人、中央区の「東」が472人などと続いており、社会増加の多いまちづくりセンターで人口増加数が多くなっている。

人口増加数の多いまちづくりセンターは、マンションの多い都心から3km以内のまちづくりセンターや宅地分譲の進んだ郊外のまちづくりセンターで多くみられる。

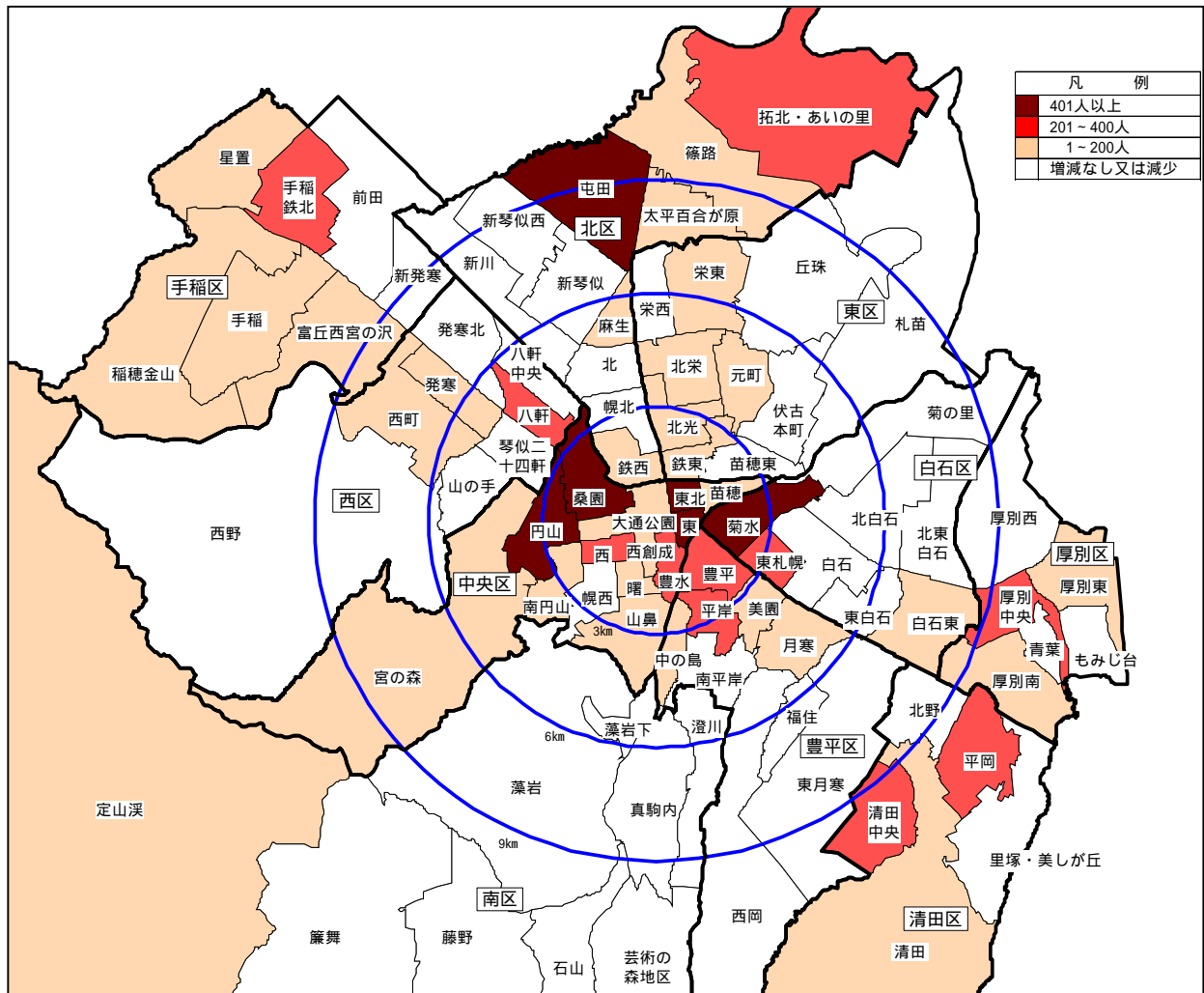
第11表 人口増加数の多いまちづくりセンター

順位	まちづくりセンター	人口増加数	平成20年中	
			自然増加 1)	社会増加 1)
1	中) 桑園	668	(9)	93 (1)
2	中) 円山	588	(23)	28 (2)
3	中) 東北	524	(27)	21 (3)
4	白) 菊水	486	(16)	49 (5)
5	中) 東	472	(30)	14 (4)
6	北) 屯田	414	(1)	159 (10)
7	清) 平岡	395	(26)	24 (6)
8	北) 拓北・あいの里	362	(33)	13 (8)
9	豊) 豊平	352	(45)	1 (7)
10	中) 西	284	(40)	4 (9)

注：1) ()内の数値は、各増加数での順位。

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第8図 まちづくりセンター別人口増加数(平成20年中)



8 統計区別人口動態

(1) 自然増加

平成20年中、自然増加の最も多い統計区は北区の2017-2統計区(第12表、第9図)

統計区(人口が皆無の6002、6007、6008統計区を除いた203統計区)別の平成20年中の自然増加状況を見ると、増加が108統計区、減少が92統計区、増減なしが3統計区となっている。増加統計区は、前年(101統計区)と比べて増加している。

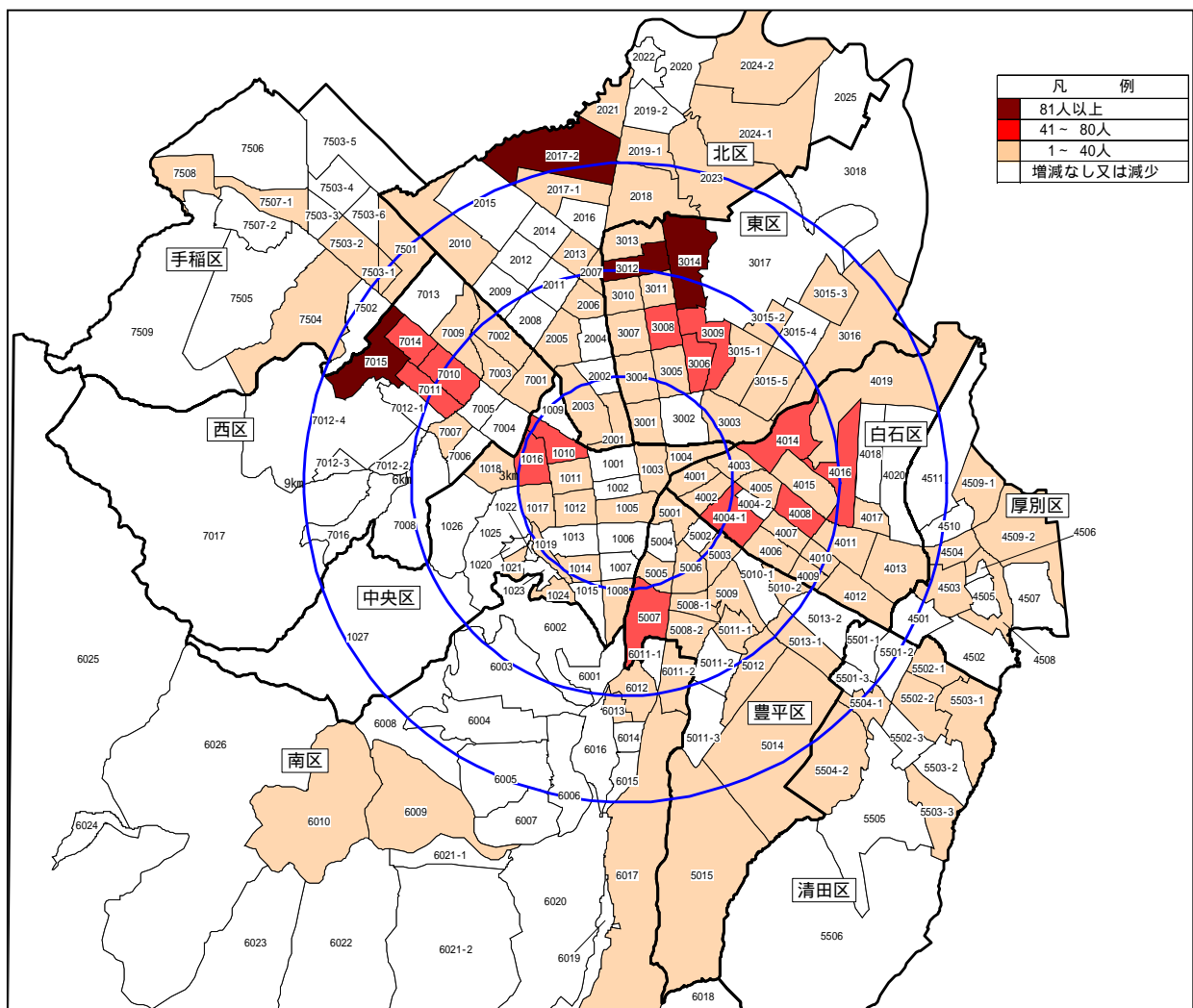
自然増加の多い統計区をみると、北区の2017-2統計区(屯田、屯田町)が160人で最も多く、以下、東区の3014統計区(栄東地区、栄町)が91人、西区の7015統計区(発寒、宮の沢)が84人、東区の3012統計区(栄西地区、栄東地区)が83人、東区の3009統計区(元町地区)及び西区の7011統計区(西町北、西町南)が67人などと続いており、2017-2統計区は5年連続100人以上増加している。

第12表 自然増加の多い統計区

			平成20年中
順位	統計区番号及び主な地区・町名		自然増加
1	2017-2	北) 屯田、屯田町	160
2	3014	東) 栄東地区、栄町	91
3	7015	西) 発寒、宮の沢	84
4	3012	東) 栄西地区、栄東地区	83
5	3009	東) 元町地区	67
5	7011	西) 西町北、西町南	67
7	7014	西) 発寒	63
8	1010	中) 桑園地区	60
9	5007	豊) 中の島、平岸	59
10	4014	白) 菊水元町、米里	56

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第9図 統計区別自然増加(平成20年中)



(2) 社会増加

平成20年中、社会増加の最も多い統計区は中央区の1003統計区(第13表、第10図)

平成20年中の社会増加状況をみると、増加が94統計区、減少が107統計区、増減なしが2統計区となっている。

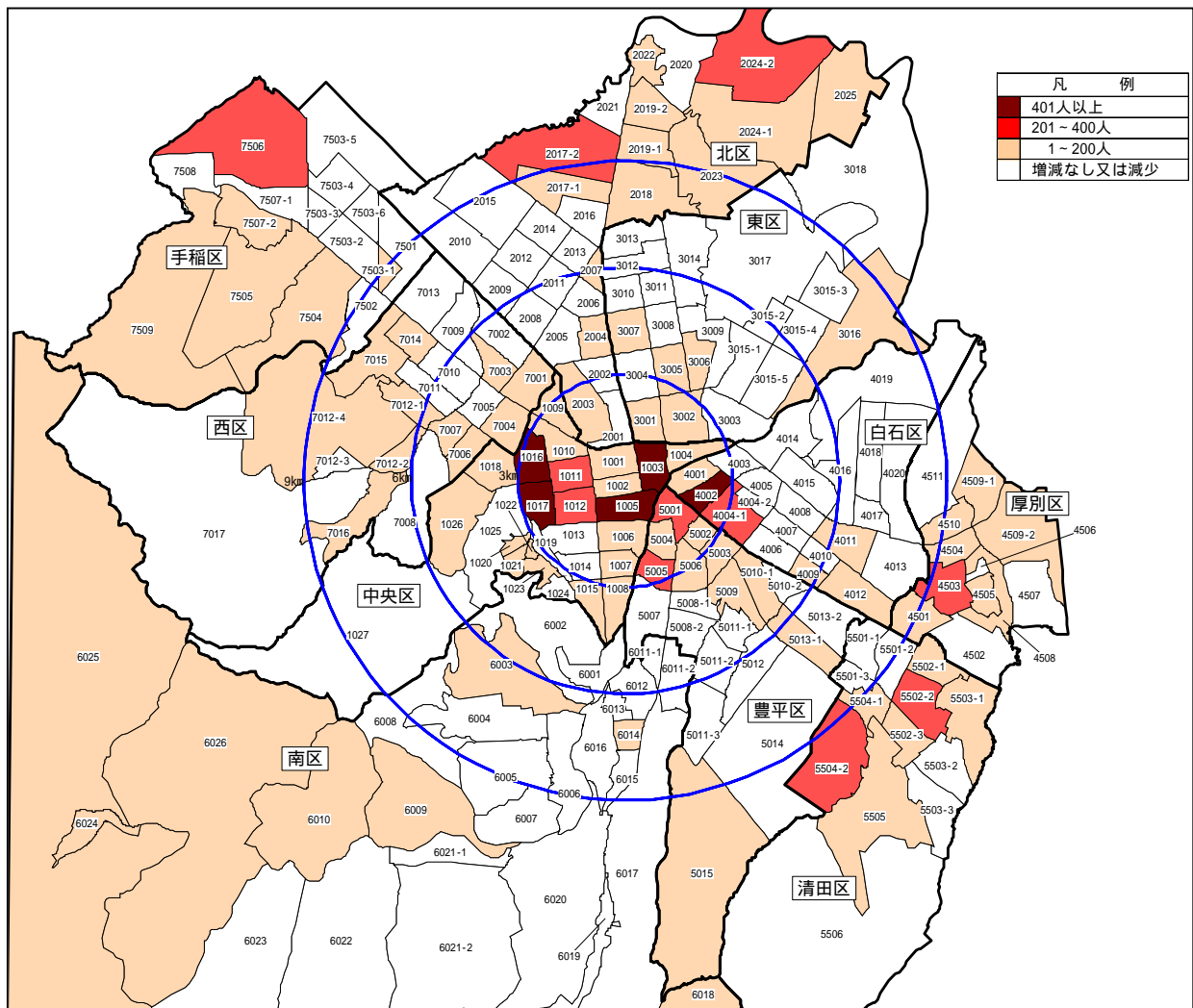
社会増加の多い統計区をみると、中央区の1003統計区(東北地区、東地区)が790人で最も多く、以下、中央区の1005統計区(豊水地区、西創成地区)が586人、中央区の1017統計区(南円山地区、円山地区)が519人、白石区の4002統計区(菊水)が452人、中央区の1016統計区(円山地区、桑園地区)が405人などと続いており、上位5統計区のうち、中央区が4統計区を占めている。

第13表 社会増加の多い統計区

平成20年中			
順位	統計区番号及び主な地区・町名		社会増加
1	1003	中) 東北地区、東地区	790
2	1005	中) 豊水地区、西創成地区	586
3	1017	中) 南円山地区、円山地区	519
4	4002	白) 菊水	452
5	1016	中) 円山地区、桑園地区	405
6	1011	中) 大通地区、桑園地区	323
7	7506	手) 曙、星置、明日風、手稲山口	315
8	5001	豊) 豊平、旭町、水車町	304
9	5502-2	清) 平岡	294
10	4503	厚) 厚別南、厚別中央、大谷地東	284

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課

第10図 統計区別社会増加(平成20年中)



第14表 男女、月次、区別人人口動態(平成20年)

住民基本台帳による。

男女、 月及び区	人口 増加数	自然動態			社会動態											区間移動・その他					
		自然 増加	出生	死亡	社会 増加	市外との移動						転入			転出			区間移動			職権等 増減
						増加数			転入			転出			増加数						
						総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外	増加数	転入	転出	増加数	転入	転出	
総数	3,782	522	14,739	14,217	3,260	3,116	12,412	9,296	66,745	42,535	24,210	63,629	30,123	33,506	144	-	60,101	60,101	144		
男	304	206	7,496	7,702	98	182	5,116	5,298	35,875	21,757	14,118	36,057	16,641	19,416	84	-	29,044	29,044	84		
女	4,086	728	7,243	6,515	3,358	3,298	7,296	3,998	30,870	20,778	10,092	27,572	13,482	14,090	60	-	31,057	31,057	60		
月別																					
20年 1月	301	125	1,309	1,434	176	199	396	595	3,018	1,824	1,194	3,217	1,428	1,789	23	-	3,287	3,287	23		
2月	73	33	1,091	1,124	106	89	589	500	3,520	2,247	1,273	3,431	1,658	1,773	17	-	3,946	3,946	17		
3月	2,107	111	1,165	1,276	1,996	1,887	2,927	4,814	13,655	9,115	4,540	15,542	6,188	9,354	109	-	7,333	7,333	109		
4月	3,157	24	1,182	1,158	3,133	3,084	3,358	274	13,984	9,501	4,483	10,900	6,143	4,757	49	-	6,399	6,399	49		
5月	374	27	1,212	1,185	347	322	868	546	4,156	2,567	1,589	3,834	1,699	2,135	25	-	4,837	4,837	25		
6月	350	85	1,197	1,112	265	241	587	346	3,937	2,330	1,607	3,696	1,743	1,953	24	-	4,588	4,588	24		
7月	599	166	1,373	1,207	433	397	829	432	4,960	3,071	1,889	4,563	2,242	2,321	36	-	5,088	5,088	36		
8月	419	118	1,186	1,068	301	271	645	374	4,095	2,415	1,680	3,824	1,770	2,054	30	-	4,665	4,665	30		
9月	27	143	1,318	1,175	116	134	450	584	4,146	2,524	1,622	4,280	2,074	2,206	18	-	5,008	5,008	18		
10月	789	140	1,364	1,224	649	650	890	240	4,892	3,005	1,887	4,242	2,115	2,127	1	-	5,438	5,438	1		
11月	154	86	1,175	1,089	68	60	398	338	3,333	2,100	1,233	3,273	1,702	1,571	8	-	4,975	4,975	8		
12月	248	2	1,167	1,165	246	222	475	253	3,049	1,836	1,213	2,827	1,361	1,466	24	-	4,537	4,537	24		
区別																					
中央区	3,778	88	1,620	1,532	3,690	2,168	2,832	664	12,766	6,940	5,826	10,598	4,108	6,490	1,522	1,472	9,136	7,664	50		
北区	322	81	2,073	1,992	241	40	1,332	1,372	8,745	5,335	3,410	8,785	4,003	4,782	281	320	7,700	7,380	39		
東区	354	424	2,295	1,871	778	223	1,620	1,397	8,172	5,570	2,602	7,949	3,950	3,999	1,001	1,025	7,354	8,379	24		
白石区	118	368	1,915	1,547	250	159	1,286	1,127	7,193	4,994	2,199	7,034	3,708	3,326	409	451	7,680	8,131	42		
厚別区	26	117	839	956	143	246	810	564	4,225	2,796	1,429	3,979	1,986	1,993	103	127	3,366	3,493	24		
豊平区	500	143	1,746	1,603	357	553	1,679	1,126	8,224	5,310	2,914	7,671	3,631	4,040	196	237	8,345	8,582	41		
清田区	572	20	801	781	552	23	481	458	2,748	1,876	872	2,725	1,395	1,330	529	547	3,430	2,883	18		
南区	1,367	417	868	1,285	950	408	314	722	4,226	2,789	1,437	4,634	2,475	2,159	542	556	3,713	4,269	14		
西区	92	104	1,693	1,589	12	190	1,279	1,089	6,833	4,297	2,536	6,643	3,018	3,625	202	195	6,017	6,212	7		
手稲区	95	172	889	1,061	267	2	779	777	3,613	2,628	985	3,611	1,849	1,762	265	252	3,360	3,108	13		

<資料> 市民まちづくり局企画部統計課